



評者

イマジニア株式
会社代表取締役会長
兼 CEO
公益財団法人
松下政経塾副理事長
神藏 孝之

香川俊介さん
追悼文集発行委員会 編



『財務官僚・香川俊介追悼文集 「正義とユーモア」』

イマジニア株式会社 2016年12月 定価2,000円(税込)

※一般市販はしていません。

書籍購入問合せ先：
イマジニア株式会社
TEL03-3343-8916

財務次官を務め、58歳の若さで他界された香川俊介さんの追悼文集『正義とユーモア』を昨年12月に発刊させていただいた。三十数年来の親友であり、同じ時代を生き抜いた稀有な官僚であった彼の生き様や、彼との思い出を形にして残しておきたい——それが私の願いだった。

香川さんは官僚として数々の功績を残されてきた。たとえどんな困難があろうとも、ガッツと誠意をもって真正面から敢然と取り組む人だった。そして、志に燃える彼は毎回、色々なことをやらかしたものだ。

防衛担当主計官時代、聖域とされていたアメリカ軍への「思いやり予算」に手をつけ、何と削減してみせた。アメリカ大使館からは「お尋ね者」扱いされ、日本の関係省庁からも苦い顔をされたようだが、見事にやりおかせてみせた。

公共事業を14兆円から7兆円に削ったこともある。当然、大物政治家たちと激しいやりとりをしなければならない。しかし、彼の凄いとところは、そのような政治家たちに一人で突撃して行って主張すべきを主張するのに、持ち前の愛嬌と誠実さで、敵にならないどころか仲良くなってしまおうところだ。

2012年、野田政権下で結ばれた民主党、自由民主党、公明党の「社会保障・税一体改革に関する合意(三党合意)」も彼の代表的な功績だろう。しかし、その年末に安倍政権が誕生すると、2014年4月から消費税率8パーセントへの引き上げは実現したものの、2015年10月からの10パーセントへの引き上げは延期されることになる。現・内閣官房長官の菅義偉氏は本文集への寄稿で、2014年11月の消費税率引き上げ延期をめぐる香川さんとのやりとりを明かしている。

〈ある日、官邸に呼んで、「消費税の引き上げはしない。おまえが引き上げで動く政局になるから困る。あきらめてくれ」と静かに話をしました。香川はつらかっただろうけど、「長官、決まったことには

必ず従います。これまでもそうしてきました。ですが、決まるまでは、やらせてください」と言っていました〉(『正義とユーモア』128ページ)

言葉通り香川さんは、最後まで引き上げ実施に向け説得に動いた。「いつも『捨て身』で向かってくる香川は手強かったです」と菅氏が振り返るように、最後は政局となり、安倍首相が衆院解散・総選挙に打って出ること、引き上げ延期を決定した。

また、菅氏は香川さんが亡くなる4日前に病室を見舞っている。

「病床の香川は意識も朦朧としていて交わした言葉もわずかでしたが、握った掌をしっかりと握り返してくれました。いつまでもそのことは忘れません」——国の行方をめぐる真剣な政策論争で対立しても、親交が変わることは決してなかったようだ。

そんな香川さんとお付き合いさせていただいたことを振り返って、今、私のまぶたに浮かんでくるのは、あの愛敬ある笑顔だ。彼にはとびきりの懐の深さと、幅の広さがあった。偉ぶるところなど全くなく、いつもウィットに富み、ユーモアを忘れずに、本当に友だち思いで、驚くほどの気配りの人でもあった。「友だちでいてくれてありがとう」と心から感謝するばかりである。

香川さんの類まれなる能力と人間力が、生前、各所で遺憾なく発揮されたのは、たとえるなら『鬼平犯科帳』の長谷川平蔵のように、彼が「役人として、国を司る」というパブリックマインドと、「市井の人々の営みと気持ちを理解し、民を護る」という正義感の両方を持ち合わせた人だったからではないかと思えてならない。

「人は二度生きる」の例え通り、これからの香川さんの生は、ご家族や友人・知人の思い出の中に生きることになった。この激動の時代、私も香川さんのように自分の生き様をつくり、自らの生を精一杯全うしたいと思っている。